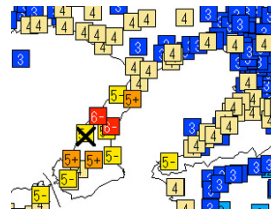


やっときゃよかった、やってよかった防災式

◆シリーズ「あなたならどうする？」地震編パート5

4月13日5時33分頃に淡路島付近でM6.3の地震が発生。淡路市で震度6弱を観測し、加古川では震度4の揺れに襲われました。さて、この地震発生の瞬間あなたはどのような対応をしたのでしょうか？



「この揺れは大変だと思ったグループ」と「この揺れなら大丈夫だと思ったグループ」の大きく2つのグループに分類して考えてみましょう。

この揺れは大変だと思った人のグループは、その後の行動を少し思い出してみましょう。日本のどこかで毎日のように大小様々な地震が発生し、多くの人が揺れを体感しているので「いつもの揺れと違う！」と思ったのではないのでしょうか。特に緊急地震速報を設置している家庭や、携帯電話・スマホのエリアメールがけたたましく鳴り響き、異様な空気が流れたことでしょう。加古川では「BANBANネットワークス」が提供する緊急地震速報でも「震度5弱、1、0」と発報。先月号でもお話ししましたが、**日頃から少しだけ防災アンテナを張る暮らし**をしていれば、異変に対して適切に対応できるのです。その対応は「**構え**」です。構えることができれば、致命傷になる確率が限りなく減るのです。近年の大地震からの教訓の中でも「**構えの大切さ**」が叫ばれています。その構えとは何でしょう。「とっさに取った構えの行動」は各人の置かれた状況や状態によって全く違います。就寝中の人、起床していた人、仕事の人など、個々の状況は違って、「思いはひとつ」だったはず。それが「**死なない構え**」です。その言葉に少しの思考をプラス。それが「**臨機応変の死なない構え**」なのです。あなたの置かれている状況や状態を瞬時に把握し、守るものを守る。これは日頃から防災アンテナを張ることで自然に行動できる構えです。

4月13日5時33分に戻って、考えてみましょう。あなたは何かできましたか？守るものを守るために行動できましたか？それらは今考えると適切な行動だったと自信を持って言えますか？

あえて「構え」の具体例はお伝えしません。なぜなら、あなたの状況やあなたの守るべきものが私達には判らないからです。日頃からの防災アンテナに引っかかった疑問を、あなた自身で解決しなければなりません。



もし、申し上げることができるとすれば、今からでも遅くはないので「あなたは何を守りたいのか？守るための努力と学びをしているのか？」ということです。

この揺れなら大丈夫だと思ったグループは、なぜ、大丈夫と思えるのでしょうか？これらはメディアが発信する情報をすべて正しいと思い、自分から学びもせず、正しいものと誤りのあるものを選別できずに、誤った方を真に受けている人、特に自分が楽だと思う方を選択するのは大人に多い傾向で「**震度4なら死なない**」と思い込んでいる大人達です。東日本大震災でも、この傾向が顕著に出たことがありました。

子ども達は学校で「地震が発生したら逃げなさい」と教えられていました。地震発生！ある子どもが「お父さん、逃げよう」と訴えてもお父さんは「大丈夫だよ」と言う。子どもは「大丈夫じゃないよ、逃げようよ。避難指示も出てるよ」そこでお父さんの言葉が「最近、津波なんて来ていないから、大丈夫いいから寝なさい」子どもは「ダメだって！津波は恐ろしいもので、時には大きな津波が来るんだよ」お父さんは「うるさい、もう寝ろ」という会話だったそうです。

ここであえて申し上げます。地震の怖さや恐ろしさ、襲ってくる後の被害というものを全く理解せず、守り方も判らないのに、守れるような顔をしている！こんな親に育てられているのが、今日の日本の子ども達の現状なのです。特に誤った行動で「**不安だから家族で肩を震わせ寄り添ってやり過ごす**」これらは、この程度だったからできた「逃げの行動」であり、守るべきものを守ったような顔をしている典型的な「**楽な方を取る人の心理**」なのです。今回の淡路島の地震では、自分たちだけで守ることができたでしょう。しかし、もっと大きな地震が発生すれば、家族や少人数で、ただ怯えていても何の解決にもならないことを切に理解してほしいのです。そのためにも群馬大学・片田敏孝教授の言葉をご紹介します。それは「**避難の三原則**」です。

原則その1「想定にとらわれるな」

あなたが知り得た情報が最大値ではなくもっと大きいものもあるということ

原則その2「最善をつくせ」

これ以上の対応はできないと決めずに、精一杯やれることをやるということ

原則その3「率先避難者たれ」

ただ単に逃げるのではなく、「まずは自分から行動する。人の様子を伺ってから行動するな」ということ

今こそ「**学び**」が必要な時期が来たといえるのです。

今回の防災式は「**学び**」。そうすれば、あなたにとって、きっと良いことがあるはずですよ。

